

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 5 月 21 日現在

機関番号：32612

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K13342

研究課題名(和文)『日本霊異記』の史料論的研究 東アジア仏教説話の比較

研究課題名(英文)A Historiographical Study of the Nihon ryoui ki : A Comparison of East Asian Buddhist Stories

研究代表者

藤本 誠 (FUJIMOTO, MAKOTO)

慶應義塾大学・文学部(三田)・准教授

研究者番号：60779669

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、主に日本最古の仏教説話集『日本霊異記』と中国仏教説話集との比較研究と『東大寺諷誦文稿』の分析を行った。その結果、第一に、中国仏教説話集の表現・説話構造及び思想の影響と独自性が存在したことが明らかとなった。特に、中国では歴史書と認識された説話集が日本では宗教書と認識されていたことなど、『日本霊異記』の成立は中国仏教の受容状況に規定されていたことを指摘した。加えて、『東大寺諷誦文稿』の考察から、古代日本の地域社会における仏教法会と『日本霊異記』の編纂には思想的に深い関係があったことを指摘した。以上、『日本霊異記』は東アジア世界の中で独自性をもつ仏教説話集として成立したことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『日本霊異記』は日本最古の仏教説話集として学術的価値をもつものとされてきたが、東アジア世界の中の古代日本という視点から、九世紀前半に編纂されたことの歴史的意義が十分説明されてこなかった。本研究では、本説話集と中国仏教説話との比較研究に加え、八・九世紀の日本の中国仏教書の受容状況から、中国仏教の影響を受けながら、本説話集が日本独自の仏教説話集として成立したことを指摘した。またこの時代は日本で初めて地域社会にまで仏教が浸透した時期であり、本説話集の成立とも密接に関わっていた。この事実は、日本古代史研究のみならず日本社会における仏教の持つ意味や、東アジア世界の中の日本を理解するために重要である。

研究成果の概要(英文)：In this study, we conducted a comparative study of the "Nihon ryoiki" (『日本霊異記』) and Chinese Buddhist collections and analyzed the "Todaiji fujumonkou" (『東大寺諷誦文稿』). As a result, first, the influence of expression, structure, and thought from Chinese Buddhist collections of discourses on the "Nihon ryoiki" and its uniqueness became clear. In particular, "Nihon ryoiki" was influenced by the reception of Chinese Buddhism, such as the fact that a collection of Buddhist sermons recognized as a history book in China was recognized as a religious book in Japan. In addition, from an examination of the "Todaiji Inscription Manuscript," it was pointed out that there was a deep ideological relationship between the compilation of the "Nihon ryoiki" and the Buddhist rituals of the local community in Japan. In sum, I have shown that the "Nihon ryoiki" was established as a collection of Buddhist discourses with uniqueness in the East Asian world.

研究分野：日本古代史

キーワード：日本古代仏教史 東アジア仏教 日本霊異記 東大寺諷誦文稿 中国仏教説話・僧伝・仏教類書 地方寺院 仏教法会 データベース

1. 研究開始当初の背景

(1) これまでの古代史研究においては、『日本霊異記』の宗教的テキストとしての史料的性格が十分には考慮されてなく、あくまで二次史料として、個別的表現や部分的内容のみを用いる研究方法が一般的であった。つまり『日本霊異記』の史料的性格を踏まえた歴史学的な分析手法は未確立であったといえる。特に五世紀代から仏教説話集が編纂されていた中国を中心とする東アジア世界からの影響を踏まえた上で、『日本霊異記』の位置づけは不明確であった。

(2) 古代日本において九世紀になって初めて仏教説話集が編纂されたことの歴史的意義については、一九七〇年代に民族意識の萌芽という視点からの研究は見られたが、近年までの古代東アジア諸国と古代日本との関係や、古代日本における中国仏教書の受容状況を踏まえた上で検討が十分になされてなく、『日本霊異記』研究において、克服すべき課題の一つであった。

(3) 『日本霊異記』成立の歴史的背景については、一九九四年に鈴木景二氏による『東大寺諷誦文稿』の研究により、各地域の寺や堂における法会で語られた説法の手控えが、『日本霊異記』の編者である景戒のもとに集められ、景戒がそれらの原資料を編纂することにより『日本霊異記』が成立したとする仮説が出され、通説となっている。しかしその後二十年以上にわたって、その仮説を検証することなく、『東大寺諷誦文稿』の構造・表現・思想についての具体的な考察が停滞していたことにより、『日本霊異記』と『東大寺諷誦文稿』の具体的な関係性についてはなお不明確な状況にあった。

(4) 申請者はこれまでの研究において、『日本霊異記』と一部の中国仏教説話の話型を比較検討した結果、『日本霊異記』の話型には中国仏教説話の影響が大きいことが、その内容には古代日本独自の内容が多く含まれていることを明らかにしてきた。また筆者は、十年以上にわたり『東大寺諷誦文稿』の史料論的考察を深め、思想的側面において『日本霊異記』との連関が予測されるようになった。しかし、全体構造や表現レベルの分析についてはなお検討の余地が残されていた。本研究は、上記の前提に基づき行ったものである。

2. 研究の目的

(1) 『日本霊異記』と中国仏教説話の比較について、一部ではなく、できる限り中国仏教説話の全体像を把握した上で、『日本霊異記』との比較をすることが重要であると考え、まず中国の六朝期から隋唐期における仏教説話集の史料収集を行い、表現・話型を整理し、そのうえで『日本霊異記』と比較することにより、東アジア仏教世界における『日本霊異記』の位置づけを明らかにすることを目的とした。

(2) 『東大寺諷誦文稿』の史料論的考察を深化させ、特に構造・表現・思想について明らかにすることにより、古代日本の地域社会における官大寺僧の仏教活動の実態や、地域社会の仏教的秩序の構造を明らかにするとともに、法会で語られた仏教思想を明らかにし、『日本霊異記』との強い関連性を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 六朝隋唐期の中国仏教説話集(六朝期の応驗記・『冥祥記』・『冥報記』・『金剛般若経集驗記』・『華嚴経伝記』・『釈門自鏡録』・『弘誓法華伝』・『法華伝記』等)の収集とデータベース化・目録化により、『日本霊異記』の序文・各説話の話型・各説話の表現と、中国仏教説話のそれとの比較検討を行い、中国仏教説話からの影響面と『日本霊異記』の独自性の両側面について考察した。

(2) 『東大寺諷誦文稿』の構造面については書き入れや抹消部分の分析を行うとともに、文章表現・内容と六国史の記事を比較検討することによって、史料の全体構造について考察した。また表現面においては、六国史や『類聚三代格』・『戸籍』・『計帳』などの比較検討を行い、法会で語られる疾病・障害表現の意味を考察した。加えて思想面においては、法会の説法で語られていた仏教思想と『日本霊異記』の編纂思想との関連性などを考察した。

4. 研究成果

(1) 『日本霊異記』には、中国六朝隋唐期の仏教説話集の話型・表現に大きな影響を受けながらも、編纂意識の側面では、中国において歴史書の一部とされていた仏教説話集を、経典等と同様の宗教書とする独自の意識が存在し、さらに編纂思想には古代地域社会の法会で語られていた仏教思想と密接に関わっていたことを明らかにし、そのような事実から古代日本における最古の仏教説話集の成立には、古代日本の独自の歴史的背景が存在したことを指摘した。

(2) 『日本霊異記』の成立には、具体的な史的背景として主に遣唐使による中国仏教書の古代日本への将来が制限されたものであったことにより、限られたいくつかの仏教説話集(おそらく序文にみえる『冥報記』・『金剛般若経集驗記』の二書)が大きな影響を与えた可能性が高いことを指摘し、東アジア仏教世界における文化的後進性が『日本霊異記』の独自性を生み出したものと評価した。この事実は、一方で『日本霊異記』が古代日本の地域社会の実態の一端を色濃く反映した史料としても改めて位置づけることが可能となったことを示すものであり、今後の古代

史研究や古代仏教史研究において、このような視点を踏まえた上での更なる活用が期待される。

(3)『東大寺諷誦文稿』の史料性について考察し、本書が官大寺僧の都と地方における仏教活動により、八世紀後半から九世紀にかけて仏教が地域社会の村落レベルにまで受容されたことを示す指標となる史料であることを確認した。そのうえで地域社会の寺や堂における法会の説法で用いられた資料が『日本霊異記』の原資料となったという仮説について、思想面でも『日本霊異記』と共通することを明らかにし、先行研究を補強した。

(4)『東大寺諷誦文稿』の史料論的考察から、その構造には郡レベル以上と村落レベルという二系統の法会で語られる内容が含まれている事実を析出したことにより、以前に報告者が指摘した『日本霊異記』における「寺」と「堂」という階層構造が存在した事実と対比できることが明らかとなった。ここで明らかにした成果は、『日本霊異記』との関係性を改めて示すとともに、古代地域社会の宗教構造として、郡レベル以上の仏教と村落レベルの仏教が存在したことを前提として考察することができるようになり、古代地域社会と関わる諸研究とも繋がるものである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 藤本誠	4. 巻 47号
2. 論文標題 『日本霊異記』の成立 日中の仏教説話集の編纂意識を手がかりとして	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『仏教文学』	6. 最初と最後の頁 41-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本誠	4. 巻 18
2. 論文標題 『東大寺諷誦文稿』の再検討 病者（障害者）・路辺遺棄者・貧窮者等を中心として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本仏教総合研究	6. 最初と最後の頁 15-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本誠	4. 巻 29
2. 論文標題 『東大寺諷誦文稿』 「釈迦本縁」 「慈悲徳」 についての基礎的考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 水門	6. 最初と最後の頁 113-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本誠	4. 巻 91巻第3号
2. 論文標題 古代地方寺院の性格と機能 地方豪族と住僧の検討を中心として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 史学	6. 最初と最後の頁 1-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本誠	4. 巻 62号
2. 論文標題 『東大寺諷誦文稿』における孝子伝的記述の特質 - 抹消（擦消）の意味と史的背景をめぐって-	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 古代文学	6. 最初と最後の頁 83-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本誠	4. 巻 57号
2. 論文標題 〔書評〕小林崇仁著『日本古代の仏教者と山林修行』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 説話文学研究	6. 最初と最後の頁 246-249
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 藤本誠
2. 発表標題 『日本霊異記』の成立と東アジアの仏教
3. 学会等名 仏教文学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤本誠
2. 発表標題 『東大寺諷誦文稿』の再検討 病者（障害者）・路辺遺棄者・貧窮者等を中心として-
3. 学会等名 日本仏教総合研究学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤本誠
2. 発表標題 古代日本の地方寺院の性格と機能 地方豪族と住僧の検討を中心として
3. 学会等名 ReMo研 日本中世寺社班研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤本誠
2. 発表標題 古代日本の「孝子」受容と地域社会の法会 『東大寺諷誦文稿』を中心として
3. 学会等名 古代文学会2022年度夏期セミナー
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤本誠
2. 発表標題 日本古代における疾病・障害表現の基礎的考察 日中仏教説話集の比較を手がかりとして
3. 学会等名 「障害の歴史性に関する学際統合研究 比較史的な日本観察」 科研基盤研究(A)第11回研究会(オンライン開催)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 吉村武彦、川尻秋生、松木武彦、田中史生、白井久美子、大橋泰夫、藤本誠、大隅清陽、田島公、福田ア ジオ	4. 発行年 2022年
2. 出版社 角川書店	5. 総ページ数 316
3. 書名 『シリーズ地域の古代日本 東国と信越』	

1. 著者名 伊藤 聡、佐藤 文子、藤本 誠、松本 郁代、井上 智勝、桐原 健真、原田 正俊、高志 緑、西村 明	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 257
3. 書名 『日本宗教の信仰世界』 日本宗教史5	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------